

子どもの意見表明の機会確保試行事業の実施について【報告】

こども基本法および三田市こども計画に基づき、子どもが地域社会の一員として意見表明できる多様な機会確保の仕組みづくりに向けた試行事業として、ゆりのき台中学校のご協力のもと「中学生未来トーク」を実施しました。以下、実施内容等について報告いたします。

【事業実施の背景】

<国の動き>

令和5年4月施行のこども基本法第3条において、「すべてのこどもが、年齢や成長の程度に合わせて、自分に直接関係することに意見を言えたり、さまざまな活動に参加できること」、第11条では「国及び地方公共団体は、こども施策を策定し、実施し、及び評価するに当たっては、当該こども施策の対象となるこども又はこどもを養育する者その他の関係者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする」と規定。

<三田市の動き>

こども基本法の趣旨を踏まえ、「子ども・若者の権利と幸せを守る『こどもまんなかのまち』さんだ」をめざす「三田市こども計画」が令和7年4月からスタート。重点施策として、子どもが権利の主体であることの普及・啓発や、子どもが地域社会の一員として意見を表明できる機会確保に努め、まちづくりに参画できる環境づくりを推進することなどを記載。

1.「中学生未来トーク」について

開催日：令和7年11月28日(金)

開催場所：ゆりのき台中学校 体育館

対象者：ゆりのき台中学校3年生

3年生の生徒数								
組	1	2	3	4	5	6	7	計
生徒数	38	38	38	39	38	39	38	268

概要：3年生の社会科「地方自治」の授業の一環で、各クラス(1クラス9班)が下記4テーマのいずれかを選択し提案づくり(全63提案)を行い、当日は、各クラスから選択された1提案の発表(全7提案)を行いました。

【研究テーマ】

- 子育て政策について ……3組、7組
- 学校(教育)政策について ……2組、6組
- 三田市の発展について ……1組、5組
- 三田市のPRについて ……4組

2.各クラス代表班の発表内容について

①ベビー用品の配達について【3組～子育て政策関係～】
子育て中の経済的負担や買い物の負担を軽減するため、生後3か月から満1歳までの子どもがいる家庭を対象に、おむつ・離乳食などを月1回無料で配達するサービスを提案。子育て経験のある方が配達を行うことで悩みを相談する機会を提供し、保護者の心のケアにもつなげる。
②「教育・育児サポートAI」について【7組～子育て政策関係～】
教育・育児に関して既存の相談機関を利用できない人のために、三田市の子育て経験者などからのアンケート結果を学習させた24時間相談が可能なAIを導入し、育児不安の少ない、子育てしやすいまちづくりを提案。
③三田市の学校の統廃合について【2組～学校(教育)政策関係～】
過疎化による少人数学校の組織力低下に対応するため、バス運行などの通学対策や校舎跡地の交流場所としての活用を実施するなど、地域の不安の声に対応しながら学校の統廃合を進めていくことを提案。
④「放課後の自習」について【6組～学校(教育)政策関係～】
公共施設の自習スペース不足に対応するため、放課後の空き教室を自習スペースとして活用し、元教員や大学生を見守りスタッフとして配置することで、学力向上と勉強がしやすい市として認知を得て、人口増加へ繋げることを提案。
⑤「移動型スーパー」について【1組～三田市の発展関係～】
山間部や高齢者など市街地まで買い物に出るのが困難な方を支援するため、市街地のスーパーと連携した移動型スーパーを導入し食料や日用品を販売する。市内どこでも買い物が出来るようにすると共に、地域交流のつながりの場とする提案。
⑥「三田市観光業発展」について【5組～三田市の発展関係～】
三田市の知名度を上げていくため、三田の食や自然を活かしたイベントの実施、地場産レストランの開業、独自観光バスの運行などを行い、観光客増加と地域の活性化・移住先として選ばれるまちを目指す提案。
⑦三田ごはん道でごはんどう？【4組～三田市のPR関係～】
三田市に多くある飲食店の魅力を市外の子育て家庭に発信するために、三田駅周辺の飲食店と協力し、昼間に子どもや大人が楽しめる食イベント「三田ごはん道」を開催することで、地域活性化と大人になっても住みたいまちづくりを促進する提案。

3.成果及び今後の課題について

■生徒目線での多様な提案が集まり、市長との直接対話を通じて子どもたちのまちづくりへの参画意識が向上した。

■中学校の準備協力のもと試行事業として実施したが、今後については学校側・生徒の負担も考え実施方法の見直しが必要。